

神戸映画資料館 新発掘

〈会場〉神戸映画資料館

神戸発掘映画祭 2024

〈日程〉10月19日(土)

25日(金)

26日(土)

27日(日)

木村莊十二 水辺から見晴らす社会

「映画の発掘」とは何を意味するのでしょうか？
映画資料館の収蔵庫、家庭の押し入れや蔵、
はたまた古物商の店頭には、確かに存在しているフィルムたち。
その存在に気づき、そこに写っているものを見て、
その価値を様々な視点から検証し再発見すること、
それらすべてを「発掘」ととらえた映画祭です。



How to keep tooth healthy?

1970年代のコンピュータ映像
フィルム 私たちの記憶装置
返還映画「四つの結婚」

最近発掘した珍しいフィルムや、デジタル化により上映が可能になった映画を上映。神戸映画資料館に寄贈されるフィルムは近年増加の一途を辿っている倉庫の収納限界を超えてきた。フィルム保存の重要性を広く訴える目的での上映でもある。



『口腔衛生』

19日(土)15:20- 9.5mmデジタル化作品集

『富岡末雄作品集(魚崎、甲子園など)』『水泳美人 パテー映画』

1930年頃 | 11分 | 富岡末雄

不詳 | 2分

『故森紅氏葬儀』

1941年 | 3分

『染物屋に夢中のマックス』

Amoureux de la teinturière

フランス | 1912年 | 5分 | マックス・ランデー

『童話 浦島太郎』

1931年 | 7分 | 宮下万三

『ベビーベギー主演 奇術騒動』

A Back Yard Theater

アメリカ | 1914年 | 2分 | シンドニー・ダイヤモンド

『漫画 御存知荒又仇討』

1932年 | 6分 | 大石郁雄

『お夢の人形園』

不詳 | 5分

すべてデジタル(元素材9.5mm)/無声

〈解説〉橋本英治(映画研究者)、いいをじゅんこ(クラシック喜劇研究家)

神戸映画資料館所蔵の9.5mmフィルムをデジタル化するために元・神戸芸術工科大学教授の橋本英治がパテー・ベビー映写機とCCDカメラを組み合わせたスキャナーを開発した。これまでにスキャンを完了したフィルムの中からホーム・ムービー、アニメーション、喜劇映画などを上映。男爵家に生まれた富岡末雄の作品集、個人映画作家として近年注目を集める森紅の葬儀風景、宮下万三や大石郁雄のアニメ作品、邦題のベビーベギーではなく幻の子ども喜劇シリーズの1本と判明した作品など多彩なプログラム。



『ベビーベギー主演 奇術騒動』

20日(日)13:00- 幻の大宝映画



『大吉ぼんのう鏡』

1962年 | 83分 | 35mm 〈製作〉シナリオ文芸協会

〈監督〉猪俣勝人 〈脚本〉猪俣勝人、田辺虎男

〈原作〉寺内大吉 〈撮影〉森隆司郎

〈音楽〉塚原哲夫 〈出演〉竜崎一郎、筑波久子、川喜多雄二、炎加世子、殿山泰司

大宝映画配給の山際永三監督『狂熱の果て』が2018年に国立映画アーカイブで発掘上映され話題となった。本作は直木賞作家・寺内大吉の代表作の映画化。墓地の敷地を体育娯楽センターにしようと画策する町会のボスたちが、ストリッパーを坊主頭の尼僧に仕立てお色気で和尚に迫る。長野のフィルムコレクター高橋正人氏旧蔵フィルムで上映。なお、カラー作品だが退色激しく赤色化している。

20日(日)14:50-

新発掘アニメと雪村いづみの歌唱映画

『カティ石嶽』

1922年頃 | 1分 | 無声 | 北山清太郎(推定)

『口腔衛生』

1923年(1922年説あり) | 5分 | 無声 | 北山清太郎(推定)

『火災予防(仮題)』

不詳 | 9分 | 無声 | 北山清太郎(推定)

『小人の電話』色彩デジタル復元版

1953年 | 26分 | 荻下泰司

『雪村いづみの遙かなる山の呼び声』

1957年頃 | 19分 | 16mm

〈製作〉山崎喜暉 〈構成〉京中太郎

〈出演〉雪村いづみ、小倉繁、五月藤江、大谷伶子

フィルムコレクター宮国登氏が所有していた北山清太郎作とされる『口腔衛生』が、「古き良き文化を継承する会」の根本隆一郎氏により発掘され、NHKニュースにも取り上げられた。今回は根本氏の協力で『口腔衛生』を上映し、北山清太郎の功績を改めて見直すために北山作品の特徴と言われる丸文字の字幕が出る作品も併せて上映。『小人の電話』は以前にもフィルム復元版を上映したが、今回は色彩も鮮やかになったデジタル版。『雪村いづみの遙かなる山の呼び声』は明治創業の歴史のある田中映画社旧蔵品。



『雪村いづみの遙かなる山の呼び声』



27日(日)14:45-

エノケンと笠置の音楽時代劇

『歌ふエノケン捕物帖』

1948年 | 77分 | 16mm 新東宝・エノケンプロ

〈製作〉滝村和男 〈監督〉渡辺邦男 〈脚本〉山本嘉次郎、八住利雄、渡辺邦男

〈撮影〉河崎喜久 〈音楽〉服部良一

〈出演〉榎本健一、笠置シズ子、藤山一郎、旭輝子、中村平八郎

駕籠かきの権三(榎本健一)と助十(藤山一郎)、権三の女房おさき(笠置シズ子)らが繰り広げるコメディタッチの音楽時代劇映画。田中映画社旧蔵フィルムを特別上映。



27日(日)16:25-

伊丹・稲垣・千恵蔵

『俺は用心棒』

1950年 | 65分 | 35mm 東横映画

〈監督・構成〉稲垣浩 〈脚本〉伊丹万作 〈撮影〉伊藤武夫 〈美術〉嵯峨一平 〈音楽〉伊福部昭

〈出演〉片岡千恵蔵、月形竜之介、岸旗江、折原啓子、花菱アチャコ

プラネット映画資料館が従前から所蔵する後半部に、近年入手した前半部を加えてようやく長尺版16mmが完成、国立映画アーカイブの『発掘された映画たち2022』で上映するために16mmから複製した35mmニュープリント。1946年に病没した伊丹万作が生前に書いたシナリオを元に稲垣浩が追悼の意味を込めて映画化したもの。「幸福の印籠」を入手した主人公が喧嘩で牢に入り、就職口を逃す冒頭の部分が欠落。元フィルムの状態が悪く画面の揺れや欠損等があることをご了承ください。

20日(日)16:30- 1970年代のコンピューター映像

〈解説〉吉積健(美学)、橋本英治 参加無料

M・デュシャンは1920年、モーターで作動する《回転ガラス板》を製作。バウハウスのL・モホイ・ナジは1922年、《光・空間・変調器》と称する光反射装置によって、抽象映画を製作。第二次大戦後、J・ホイットニーが抽象映画の製作にコンピュータを導入。1960年代後半、映画のメカニズムを実存とする『構造映画』の動向が顕著になり、P・シャリッツが映画の一切の他界性を否定する作品を製作。以上の動向を背景に1970年代中期に製作された、記号操作による『構造』と知覚的な現象界の間をフィードバックするフィルム作品。



『Lightplay』

コンピュータ・フィルム | 16mm | 1976

25日(金)13:30-
26日(土)14:35-

『からゆきさん』

1937年 | 59分 | 35mm

〈作品提供〉国立映画アーカイブ

PC.L.映画製作所、入江ぶろくしょん

〈監督〉木村荘十二 〈原作〉鮫島麟太郎

〈脚色〉畑本秋一、東坊城恭長

〈撮影〉立花幹也 〈出演〉入江たか子、

清川虹子、清川玉枝、滋野ローチェ、丸山定夫

九州から海外へと身売りされ、「からゆきさん」と呼ばれた女性たちは、1970年代以降、山崎朋子『サングカン八番娼館 底辺女性史序章』(1972)等の著作や映画によって広く知られるようになったが、いち早くその存在を取り上げた九州出身の鮫島麟太郎の同名小説の映画化。南洋から故郷の島原に帰った「からゆきさん」たちと、彼女たちの稼ぎを搾取しつつ、「醜業婦」として差別する地域社会との抜き差しならない関係を厳しく描写する。主演の入江たか子の鮮烈なクロスアップは、自己犠牲のベースへと閉じることなく、社会の不正への怒りを前面に出す。



『からゆきさん』

25日(金)14:50-
26日(土)15:55-

『うなぎとり』

1957年 | 49分 | 16mm

神戸映画資料館所蔵

株式会社歌舞伎座

〈監督〉木村荘十二 〈脚本〉新藤兼人、勝目貴久

〈撮影〉木島誠一 〈出演〉望月優子、眞藤孝行

峠を越えて、農作業の手伝いの出稼ぎに村に

やってきた戦争未亡人の母と子が、うなぎと

りをする村の子どもたちと仲良くなるひと夏の

物語。脚本の新藤兼人の子ども時代の体験も

反映されているという。同年公開の『米』(今井

正監督)に続いて、望月優子が貧しい農村の働

く母親を演じるが、『米』の陰鬱とは違って

変わり、夏の水場の遊びの楽しさを子ども

たちと分かち合う。アジア映画祭で

企画賞・撮影賞を受賞した。



『うなぎとり』

26日(土)13:00-
講座 参加無料

プロレタリア映画作家から、戦時映画国策への傾倒を経て、敗戦後の独立プロ映画運動へと至る木村荘十二のキャリアを辿ることで、日本映画史におけるメインストリームとオルタナティブの複雑な交錯を浮かびあがらせる。一方で、「最後の傾向映画」とも称された『河向ふの青春』(1933)、河川工事に従事する『川師』たちの仕事を写実した『兄いもうと』といった戦前の代表作から、戦後の児童映画に至るまで一貫していたともいえる、「水辺」の生活風景の魅力にも注目する。

【木村荘十二 労働する身体へのまなざし】紙屋牧子(武蔵野美術大学非常勤講師)

【木村荘十二 水辺から見晴らす社会】鷺谷花(ゲストプログラマー)

27日(日)10:30-
『フィルム 私たちの記憶装置』

Film, the Living Record of Our Memory

カナダ・スペイン | 2021年 | 120分

〈監督〉イネス・トハリア・テラン

125年以上も前に撮影された映画をいまもみることができるのはなぜだろう——米国ジョージ・イーストマン博物館のL.ジェフリー・セルズニック映画保存学校を修了したスペインのドキュメンタリー作家イネス・トハリア・テランは、複数のフィルムアーカイブでの実務経験を経て、本作を3年がかりで完成させた。映画の発掘、復元、上映に並々ならぬ情熱を傾けるフィルムアーキビストたち、ジョナス・メカス、ケン・ローチ、ヴィム・ヴェンダースといった映画作家の声、そして欧米、アジア、アフリカから集めた夥しい数のアーカイバル・フッテージとともに、映画を文化遺産として救済する人々の地道な取り組みが鮮やかに照射される。2022年の本映画祭で日本初上映した本作を今年も上映。



一九〇三年に実業家木村荘平の十二男として生まれた木村荘十二は、二十一歳で映画界入りし、帝キネマ新興キネマで『傾向映画』の作り手として注目された後、PC.L.東宝の主力監督となった。戦時期には満洲に招聘され、現地で終戦を迎えた。一九五三年まで中国に留用された後に帰国、大手映画会社には帰属せず、独立プロを拠点に活動し、数々の児童映画を監督した。一九七〇年代には親子映画運動と連携し、団地の集会所で「ミニ・シアター」を主宰した。日本映画史の要所要所で重要な役割を担った作り手であるにもかかわらず、木村荘十二のキャリアが顧みられる機会は乏しかった。本特集では、一九三〇年代から六十年代まで、波乱万丈・紆余曲折を経ながらも、ある一貫性を保ちつづけた映画作家としての木村荘十二の再評価・再検証を試みる。(ゲストプログラマー)鷺谷花(大阪国際児童文学振興財団特別専門員)

木村荘十二 水辺から見晴らす社会



25日(金)16:00-
26日(土)17:00-
『海っ子山ッ子』

1958年 | 71分 | 16mm 桜映画社

〈監督〉木村荘十二 〈原作・脚本〉筒井敬介

〈製作〉村山英治 〈撮影〉木塚誠一

〈出演〉吉田治夫、高田恭夫、飯田蝶子

児童文学者・放送作家筒井敬介の連続ラジ

オドラマ『でんでん虫の歌』を、筒井自身の

脚色により映画化。西伊豆を舞台に、海辺

の漁民の集落と、山のミカン栽培農家の集

落の、昔からの対立を背負った子どもたち

の衝突と和解を物語る。ロケは伊豆半島だ

が、和歌山から飼主共々招聘された紀州犬

が演技を披露する。1959年ベネチア国際

映画祭サン・ジョルジュ賞を受賞。

26日(土)11:00-
『末っ子大将(暴れん坊大将)』

1960年 | 50分 | 16mm 神戸映画資料館所蔵 新日本プロ

〈監督〉木村荘十二 〈原作〉村田忠昭 〈脚本〉依田義賢 〈撮影〉木塚誠一

〈出演〉望月優子、島田屯、島米八

大阪府下の女性団体が合同で組織した「大阪母親プロ」が、子どもの日の自主上映に向

けて映画脚本を一般公募し、村田忠昭の入選作を、依田義賢が脚本化して映画化、『暴

れん坊大将』の題で新東宝が配給した。貧しい漁師の一家の生活描写のリアリズムに

は、桜映画社作品『海の恋人たち』(1959)を監督した際に、海員たちと生活を共にし徹

底したリサーチを行った木村荘十二の体験も生かされている。

27日(日)13:00- 返還映画
『四つの結婚』

1944年 | 63分 | 35mm

〈作品提供〉国立映画アーカイブ 東宝

〈監督〉青柳信雄 〈原作〉太宰治

〈脚本〉八木隆一郎 〈音楽〉服部正

〈出演〉入江たか子、山田五十鈴、山根寿子、高峰秀子

【解説】板倉史明(神戸大学教授)

アメリカ議会図書館が所蔵していた1400本にも及

ぶ戦前・戦中期の日本映画のフィルムが、1967年

から順次日本側に返還された。その「返還映画」の

1本で、太宰治の短編小説『佳日』の映画化。北京

に渡った友人のために結納の仲人になった主人公は、

婚約者の家を訪れることになり…。豪華な女優陣

の魅力を堪能できる作品で、戦時下の日常がユー

モラスに描かれる。



19日(土)13:00- ホームムービーの日 in 神戸

参 ちいさなフィルムのためのちいさな祭典！
加 世界各地で同時開催
無 みなさんのホームムービーを見せてください！
料 〈フィルム上映〉みなさんから寄せいただいたホームムービー

上映フィルム募集中

地域や家庭に眠るフィルムを持ち寄る上映会です。
個人的な記録(映像)が、地域の、そして時代の記憶を呼び覚まします。
この機会に、みなさんの思い出を映像とともに甦らせてください。

フィルムをお持ちのかたは、事前に事務局(神戸映画資料館内)までご連絡ください。お寄せいただいたフィルムは、傷みや内容を確認後、持ち主の方と上映のご相談をします。上映させていただいたフィルムは、その後も内容を簡単に見られるようDVD化してお渡しいたします。

〈司会〉金千秋(FMわいわい)



19日(土)16:40- 参加無料

連携企画 シンポジウム アニメの中間素材をアーカイブしながら学んだこと

アナログ時代のアニメは、その制作過程のなかで紙やセルを用いた膨大な量の中間素材を生み出した。本シンポジウムでは、業界の当事者でもなく、ファンコミュニティにも属していないアカデミアの立場からアニメ中間素材をアーカイブし、研究してきたことの意義と可能性を考察する。

発表者

「アニメ中間素材の仕分け作業からAIモデル利用の構想に至るまで」キム・ジュニアン(新潟大学)
「アニメ中間素材を手掛かりとしたアニメーション史研究の可能性」木村智哉(開志専門職大学)
「アニメ中間素材を手掛かりとした脚色プロセスの再評価ー『母をたずねて三千里』」米村みゆき(専修大学)
「原画資料から見えてきた表現とレジリエンス」板倉史明(神戸大学)

〈共催〉科学研究費補助金・基盤研究(B)

「アニメ中間素材」の分析・保存・活用モデルケースの学際的研究」(研究代表者キム・ジュニアン)

*本シンポジウムは、JSPS 科研費 20H01218D の助成を受けたものです。

20日(日)11:00- 参加無料

連携企画 アニメーション調査研究

参考上映

『森の泣蟲坊や』

1947 | 8分 | 植田映画製作所

『ヤシノミ』

1947年頃 | 10分 | 荒井和五郎

『赤い井戸』

1960年 | 12分 | 森園忠

〈解説〉板倉史明(神戸大学教授)

〈ゲスト報告〉澤田晶子(占領期の鳥取を学ぶ会)

これまで数年にわたり「文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業」の助成を受け、神戸映画資料館が所蔵するアニメーション作品の網羅的調査を実施してきた。本報告では、これまでの調査成果を踏まえて、従来の目録には存在しなかった新発見フィルムの上映や、これまでほとんど再上映されてこなかった作品をまとめて上映するほか、『日本アニメーション映画史』(1977年/有文社)の作品目録を新たな調査の上で大幅改訂に踏み切ったが、改訂版完成の意義について解説する

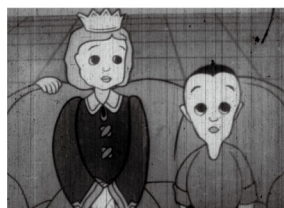
〈共催〉NPO法人プラネット映画保存ネットワーク

令和6年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業

「神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業」



『ヤシノミ』



『森の泣蟲坊や』

27日(日)18:00-

連携企画 プラネット映画資料図書館50周年記念の集い

〈会場〉神戸映画資料館ロビー

詳細は映画祭ホームページ

〈主催〉NPO法人プラネット映画保存ネットワーク

スケジュール

10月19日(土) 終了予定18:30

13:00- ホームムービーの日 in 神戸 [無料]

15:20- 9.5mm デジタル化作品集 + 解説

16:40- 〈シンポジウム〉

アニメの中間素材をアーカイブしながら学んだこと [無料]

10月20日(日) 終了予定17:25

11:00- アニメーション調査報告 [無料]

13:00- 幻の大宝映画『大吉ぼんのう鏡』

14:50- 新発掘アニメと雪村いづみの歌唱映画

16:30- 1970年代のコンピューター映像 [無料]

10月25日(金) 終了予定17:10

13:30- 『からゆきさん』

14:50- 『うなぎとり』

16:00- 『海ッ子山ッ子』



『からゆきさん』
〈提供〉国立映画アーカイブ

10月26日(土) 終了予定18:11

11:00- 『末っ子大将(暴れん坊大将)』

13:00- 木村莊十二特集 講座 [無料 | 当日の鑑賞者対象]

14:35- 『からゆきさん』

15:55- 『うなぎとり』

17:00- 『海ッ子山ッ子』



『俺は用心棒』

10月27日(日) 終了予定19:00

10:30- 『フィルム 私たちの記憶装置』

13:00- 返還映画『四つの結婚』+ 解説

14:45- 『歌ふエノケン捕物帖』

16:25- 『俺は用心棒』

18:00- プラネット映画資料図書館50周年記念の集い

入場料金

1プログラム(各回入替制)

一般 1,400円

シニア(65歳以上) 1,200円

ユース(25歳以下) 800円

会員(神戸映画資料館) 1,100円

*予約受付

メールと電話によるご予約を承ります。参加ご希望の日時とプログラム名、お名前、電話番号をお知らせください。チケットご購入時に予約済みの旨、受付でお伝えください。予約で満席でなければ、当日に予約無しでもご入場いただけます。

*当日券は1回目のプログラムの1時間前より受付開始

*無料プログラム有り

【会場】

kobe 神戸映画資料館

KOBE PLANET FILM ARCHIVE

JR新長田駅より南へ徒歩約5分

神戸市長田区腕塚町5丁目5番1-201

アスタくにつか1番館北棟2階



【予約・お問い合わせ】

神戸映像アーカイブ実行委員会(神戸映画資料館内)

〈電話〉078-754-8039 〈メール〉info@kobe-eiga.net

https://www.kobe-eiga.net/kdff/

〈ロゴデザイン〉鈴木一誌 〈デザイン〉萩原こまき